

# モニュメント設置に関する懇談会（第6回） 議事概要

- 1 開催日時 令和5年（2023年）7月19日（水）9時00分～10時45分
- 2 場所 北海道庁本庁舎 塔屋 環境生活部1号会議室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

## 4 議事概要

(1) 開会

(2) 議題及び概要

- モニュメントデザインの一次審査について

区分	審査基準
コンセプト	継承 北海道百年記念塔を発展的に継承したものであること
	共生 互いの多様性を認め合う共生が表現されていること
	未来 未来へとつながる北海道が表現されていること
	調和 公園の自然への配慮がなされ、周辺景観と調和していること
独自性	オリジナリティに溢れていること
実現可能性	モニュメントデザインが実現可能なものであること

- ・ 上記基準による一次審査を続行し、応募のあった22作品から6作品を一次審査の通過作品に選定。
- ・ 一次審査を通過した6作品とそれに対する主な意見は、次のとおり。

【作品名の五十音順】

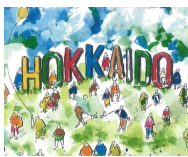


### 【彼方への想い ～ EnYui】

3つのモニュメントが、人々の支え合って寄り添う姿や互いの多様性を認め合う「共生」を表現しているほか、大地から空に向かう曲線ラインのデザインにより、未来へ向かう北海道の姿を表している。

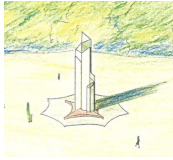
一方で、道内各地の石を使った石垣を一般参加型の手法により、道民の関わりを深めることで、100年記念塔を発展的に継承し、先人たちの想いを引き継ぐ象徴とすることを意図している。

また、配置計画図によれば周辺環境と調和した配置となっているほか、石垣の周りの回廊ベンチや花壇など「体感」交流構想の方向性に合致したものとなっている。モニュメントの素材は、白を基調とした御影石を使用することで低炭素社会を象徴するとともに、石造パネルユニットで再生可能な手法を目指している。



### 【参加型@私が主役 HOKKAIDO】

HOKKAIDOという文字を大胆に用いたユニークなモニュメント。文字をシンボルとして用いることで、北海道の命名や歴史をストレートに想起させ、先人への想いや未来を創造するヴィジョンも投げかける。モニュメントとしての独自性だけでなく、親しみやすさ、楽しさが盛り込まれている点も評価される。自然の中にカラフルで大きな文字が屹立する姿は、これまでの景観を大きく変化させ、新たな環境を生み出すことにもなると思われる。



#### 【遙かなる轍、そして未来へ】

先人たちへの感謝と畏敬の念を一番高い構造体にし、他の構造体を世代ごとにそれぞれ異なったサイズにすることで、未来への想い、さらには多様性を認め合う共生社会を志す象徴として大小7つのモニュメントとなっている。

モニュメントの表層は、ステンレス鋼の鏡面仕上げにより、色とりどりの景色が反射して映り、周辺景観に溶け込んだものとなっている。

台座の部分は、解体材を使用して100年記念塔を偲ぶとともに、周辺施設に調和したシンプルなデザインが自然への配慮も感じられる。



#### 【Plate( of 100 meters arc )】

百年記念塔のデザインモジュールである高さ100m、半径100mを継承しながら、塔の中心に直径10mの受け皿を考えている。

百年記念塔・北海道博物館・開拓の村の軸線や12号線からのアプローチの終点・百年記念塔・北海道博物館が正三角形になる配置の意味を忠実に踏襲している。開設当時の風景・景観を尊重しながら、これからを見守る意味も込められ、過去と未来を受け止める器としてのデザインである。



#### 【みんなの地層とみんなの自然】

開拓よりもはるか昔の時代からの歴史も取り込みながら、過去と現在と未来が連なり蓄積していくことを「地層」として目に見えるかたちで表現している。人々が集う場となることを大切にしており、樹木が生長し木陰を作り、周囲と溶け込みながら魅力を増していくプランである。

百年記念塔の基盤の六角形を継承しつつ、それぞれの頂点の方向性に意味付けしている点、制作課程でワークショップを行いながら、市民や既存の施設と協働し、愛着をもってもらえるように配慮している点も評価できる。



#### 【100 for eternity／百年の永遠】

百年記念塔の意思を継承し、生物の形状生成ルールに基づいた独自の手法によって、百年記念塔の幾何学的形態から曲面による有機的な形態を生み出している。その形態には成長や未来へのつながりが意識されているだけでなく、互いに阻害しない形状生成のありかたは、共生や調和という概念も生み出している。構造技術者とデザイナーが一体となったチームによる提案であり、実現にともなうさまざまな対応も十分可能と思われる。

- 道民意見の募集等について
  - ・道民意見の募集方法等について、事務局から説明し、実施を決定。
- 最終審査の方法について
  - ・最終審査について、事務局から説明し、意見交換を実施。

(3) 閉 会

## 「モニュメント設置に関する懇談会（第6回）」 出席者名簿

氏 名	所 属 ・ 職 名
佐藤 友哉	美術評論家
田尻 忠三	一般社団法人H A L 財団 常務理事  ( 前 公益財団法人北海道文化財団 副理事長兼事務局長 )
羽深 久夫	公立大学法人札幌市立大学 名誉教授
森 朋子	公立大学法人札幌市立大学デザイン学部 准教授
吉崎 元章	本郷新記念札幌彫刻美術館 館長